

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	国語科	関連する作品を読んで、せいせんしょう (教材: ヒロシマのうた・いわたくんちのおばあちゃん)	令和6年2月9日(金)

## 1 本時の目標

ワイシャツの刺繍の1文が与える効果について、自分の考えを明らかにすることができる。

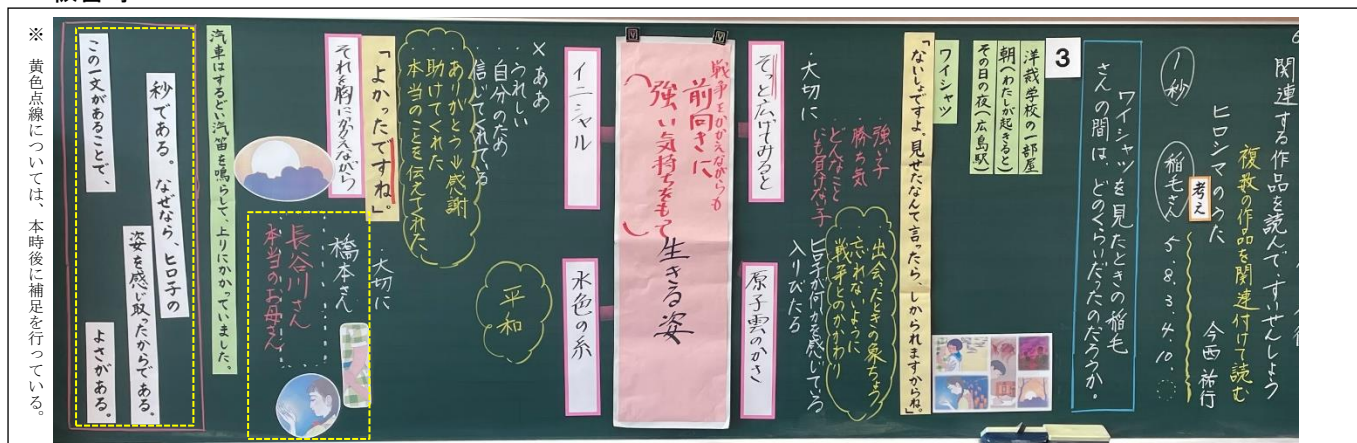
## 2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音読① (ワイシャツの刺繍の1文「以下、刺繍の1文」を除いた母親と中心人物の会話文)</li> <li>○ 中心人物 (稲毛) が返答に要した時間 (考え) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「実際の2人の会話文の間は、○秒かな。」 等</li> </ul> </li> <li>○ 学習問題 (本時の問い) <div data-bbox="165 674 783 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>稲毛さんは、何秒後に「よかったですね。」と言ったのだろう。</p> </div> </li> </ul> <p>2 解決の見通しをもち、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 解決方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基となる叙述を見付ける。</li> <li>・ 理由に着目して話し合い、考えをまとめる。</li> <li>・ 実際に音読や動作化をしながら話し合う。</li> <li>・ 形態 (グループ→全体) 等</li> </ul> </li> </ul> <p>3 稲毛さんが返答に要した時間とその理由 (刺繍の1文が与える効果) について全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理由 (刺繍の1文が与える効果) <div data-bbox="165 1155 796 1525" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音読② (時間の再現や動作化)</li> <li>○ 音読③ (叙述の意味や効果の実感)</li> </ul> </li> </ul> <p>4 話し合ったことを基に、稲毛さんが返答に要した時間とその理由 (刺繍の1文が与える効果) に対する考えを明らかにする。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 刺繍の1文が与える効果 (確かな考え) <div data-bbox="165 1787 796 1933" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) ○秒後である。なぜなら、受け取ったワイシャツからヒロ子の前向きに生きる姿を見たからである。この1文があることで、稲毛さんの安心する心情が、より感動的に表される。</p> </div> </li> </ul> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えの変容とその理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(考えが変容した理由は、) ワイシャツから伝わるヒロ子の思いや姿をしっかりと感じ取る必要があることが分かったからかな。」 等</li> </ul> </li> </ul>	<p>「自律的に学ぶ」ための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音読①の後、中心人物が返答に要した実際の時間を問い、それに対する考えを共有することで、刺繍の1文にかかわる学習前の考えをもち、本時の問題意識へとつなげることができるようにする。</li> <li>○ 学習前の考えを取り上げ、考えのずれを確認した後、全体で問いを吟味する活動を設けることで、問題意識を明確にし、本時の問いを創り出すことができるようにする。</li> <li>○ 前時までに取り組んできた解決方法を確認することで、叙述を基に話し合っていくことを意識し、話し合ったことを基に自分の考えを再構成する際に生かすことができるようにする。</li> <li>○ 適宜、実際に稲毛さんが返答に要した時間を再現したり、動作を交えたりしながら理由を伝え合う話し合いにすることで、音読を介しながら内容の理解を深めることができるようにする (音読②)。</li> <li>○ 刺繍の1文に映し出されているヒロ子の姿を板書上に示しておくことで、学習活動4の考えを再構成する際に、本時の問いに対して自分の力で考えをまとめることができるようにする。</li> <li>○ 刺繍の1文に映し出されているヒロ子の姿を確認した後、改めて本時で扱った箇所を音読する場を設けることで、刺繍の1文に込められた意味やその効果を実感することができるようにする (音読③)。</li> <li>○ グループで刺繍の1文が与える効果を伝え合った後に考えをまとめていくことを確認することで、必要な情報を整理し、本時の問いに対する考えを再構成して、明らかにした考えを書けるようにする。</li> <li>○ 明らかにした考えをまとめる際、文型を示すことで、文のつながりを意識し、理解した内容を選択しながら、自分の言葉でまとめられるようにする。</li> <li>○ 学習前後での考えの変容を確認し、変容の理由等を全体で共有することで、自分の問いの解決過程を捉え直し、次時以降の学習で自分の解決方法として生かすことができるようにする。</li> </ul>

### 3 本時の評価規準

稲毛さんが返答に要した時間の理由と、ワイシャツの刺繍の1文があることのよさについて、自分の考えを明らかにして書いている。  
(思考・判断・表現)【記述分析・行動観察】

### 4 板書等



### 5 指導講評

宮崎大学 永吉 寛行 准教授

- 最初に読んだ2つの会話文を続けて読んでよいのか、そこに間はあるのか、あるとすればそれはなぜかという問いから始まったものであった。音読の工夫とその理由を考えることは、本教材の重要なテーマに迫るものである。音読から問いを出発させ、音読をとおして、読解の中心テーマに迫っていくという点で示唆を受け、考えさせられる授業であった。
- なぜ8秒なのか、何を思いながら2つの会話文を読むのかということを見ることができると、よりよいものとなった。

宮崎県教育庁 義務教育課 宮本 朝美 指導主事

- 「水色の刺繍」の部分に、最も子どもの「なぜ」が生まれていた。この問いは、前向きに生きようとするヒロ子の心情を暗示されていると考えられる。短い時間ではあったが、そこにふれ、押さえることができた。
- 子どもが単元や本時の課題を解決するために、試行錯誤する学習場面を設定することが大切である。子どもたちは試行錯誤するなかで、言葉を吟味し、答えを導き出していく。会話文の1つ前の文章から「そっと」という言葉や、その後の文章の「ワイシャツを胸に抱えながら」等、登場人物の行動に着目し、間の必要性について思考を深めていった。このことは、国語科でいう、言葉による見方・考え方を働かせながら、叙述を基に言葉を吟味していく学習活動であり、子どもたち自身が言葉にこだわって、言葉を吟味する学習が、自律的な学習につながっていくと考えた。
- 音読の場面については、教師のみが目的をもっているのではなく、何のために今音読をするのかということ子どもにも共有することで、更に意図的な音読になっていくと考える。
- 授業においては、身に付けさせたい力を明確にし、学習のゴールを設定する。ゴールに向かうための1時間1時間で確実に指導、評価、改善を行い、指導と評価を一体化していくことが大切である。そのときに重要なことは、どのような問いや課題を設定するかである。今後も問いを解決するときには、叙述を基に解決できるものなのかという視点で、問いを精選していく必要がある。

### 6 考察

- 刺繍の1文に着目し、その前後の会話文、更にはその直後の会話文をどのように表現するかを考えながら、刺繍の1文の表現の効果を捉え、扱っている教材の重要なテーマに迫る姿が見られた。これは、音読や朗読等（音声・動作化）から問いを出発させ、音声・動作化とその理由を取り入れながら問いを解決したためだと考える。
- 学習前後の考えの変容を実感したり、自分の学びの獲得を見つめたりするふりかえりを繰り返してきたことで、本時においても、自分の考えの変容や学びの過程を捉える発言が見られた。その要因の1つとして、成功体験の蓄積が挙げられる。そして、この成功体験を共有することが、他者の学びの実感や学びの獲得にもよい影響を与えていると考える。このようなふりかえりにより、身に付けた力が汎用的なものとなり、自律的に学ぶ力へとつながっていくことが期待される。
- 問い創りのステップを踏んだとしても、必ずしも子どもの思考が1つにそろうとは限らない。本時でもそのような姿が見られた。そのため、子どもが問いを創り出すためには、①「子どもの問題意識が本時の目標から外れないステップを踏むこと」、②「教師の机間指導で、事前にどのような問いを抱いているかを把握し、その場で個別に調整を図ること」、③「全体で出された問いが、本時の目標に迫るものかどうかを判断できる力の育成や、その場で問いを修正していく経験の積み重ねや雰囲気醸成しておくこと」、④「問いを解決した後に、問いの候補として挙げられた考えについても可能な限り関連させて、学びとのつながりをもたせ、問い創りの意識を高めていくこと」の4つの必要性が見えてきた。
- 問い創りのステップを踏み、問いを吟味して創り出すには時間が必要となる。本時でも時間を要している。本時の目標に迫るための問題意識をもつ問い創りの在り方については、引き続き模索していく必要がある。